

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

2005
春

3月1日発行(季刊)



ちょっと、お茶の枠を広げてみました。

地元の男性茶人の会で「茶楽」と申します。文字通り、お茶を楽しむ会で、作法やお点前はまだまだですが、お客さまにも楽しんでもらえるよう、誠心誠意のおもてなしを心がけています。

文化講演会 「文化の力と瀬戸内海」 講師 大原謙一郎 氏

特別寄稿 お茶を楽しむ男の「茶楽」

好評連載 Oh! 茶Gal! / 喫茶居

3月から5月までの茶華道・イベント情報を掲載

45

発行・財団法人中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL.(087) 826-3355 FAX.(087) 826-2212

私は、神戸生まれ、京都育ちの倉敷人なんことをしよつちゅう、そこら辺で言っています。いわば、東京でない所の視点から日本を見るということをすつとやってきていますし、今もやっています。かなり大事だと思っていますので、高松からも、ぜひぜひ、讃岐の視点で日本を見る、あるいは、世界を見るということをやっていたらいいと思っています。

きょう、今、実はこの上の博物館を拝見してきました。素晴らしい博物館で感動致しました。「ああ、讃岐って深い」って思いました。そのことは、きょうの話ともつながってくるので、どう深いかということは、これからお話をすることの中から、ご自分達で感じ取っていただけたらいいと思います。

「文化の世紀がはじまった 文化は風雅の世界に遊ぶだけでなく、汗を流して働くことが求められる。」21世紀になって、20世紀のあの喧しい物質文明の時代から、いよいよ文化の世紀に入りました。文化の本質が、さらに深い真や美の追求につながっていくことによって、遊ぶということがありますけれども、この遊ぶが、人間の心がいろんな不安に苛まれていくこの世紀に、より深いQOL、(クオリティ オブ ライフ) 人生の質を高めるために、文化は、いろいろと働いています。もつと言えは、これに携わる人達が、より深いメッセージを一生懸命出すようになっていく。

例えば、美術につきましても、20世紀の後半の美術というのは、割合、理に流れて、ちよつと分かりにくかったですねえ。しかし、9・11以降、かなり美術の世界は、変わってきたと思います。もつと直接的なメッセージを出して来ているようになっていくかもしれない。

また、音楽の世界、特にクラシック音楽の世界というのは、かなりお高くとまった世界だったとお思いになります。あるピアニストをご紹介したいと思います。エレヌ・

文化講演会

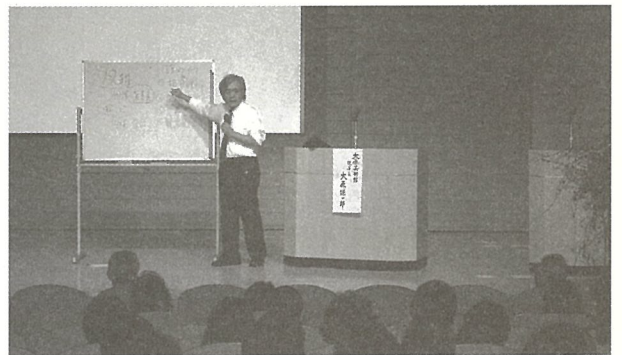
「文化の力と瀬戸内海」

講師 大原 謙一郎 氏

(財団法人大原美術館 理事長)

日時 平成16年11月7日(日)

於 香川県歴史博物館地下講堂



昨秋、倉敷よりお招きして大好評を博した大原謙一郎氏の講演を、一部ではありますがご紹介いたします。始めに「倉敷人の自己紹介」、2番目に「文化の世紀がはじまった」、3番目「地方の文化と国の再生」、そして最後に「倉敷と大原美術館が訴えたいこと」という内容で軽快にお話が進み、改めて文化の力やそのスタンスの執り方について再認識させて頂いた一日となりました。

た。それから、いろんな人もコミュニケーションできるようなった。非常に不思議なんだけれども。

この人のすごいのは、その先がまだあるんですね。自分は、そういう体験をしました。だから、これを皆と分かち合いたいということを考えます。ピアニストとして演奏をする傍ら、ニューヨークの郊外に、ニューヨークウルフセンターというのをつくりました。そこに何匹も狼を飼って、自分のように、非常に孤独な、ある意味で不幸な生活をしている子供達を、どんなそこそこの招待しました。これには、そういうことを一生懸命サポートした、経済的にサポートした人達もいますし、今、アメリカってのは変な社会だねとお思いかもしれませんが、少なくとも、そういう人達もいる社会、だということ、アメリカのために理解してあげていただきたいと思いますけれども、一万五千人の子供達が、グリモアの狼センターを訪ねて、何か開放される思いをしている。

ピアニストですよ。ただ舞台の上で、演奏する。それ以外のところは、全く別人かというふうな人が多かったピアニストの中で、全人格を賭けて、ピアノをやりながら、狼を育てながら、子供達に対して、この体験を分かち合うというふうなメッセージを出す音楽家が出て来た。

この人だけではありませんで、もう一人、例えば、マリア・ジョアンピリスという、これもピアニストですけども、非常に不幸な一時期を過ごした人ではありましたが、今、ベルギーシユウというポルトガルの田舎に、自然村をつくりまして、そこで若い音楽家達と共同生活をして、エプロン掛けで、自分で料理をしながら、ピアノを弾いている人がいます。音楽家もだんだんとそういうふうな、全人格を賭けて、深いQOLを追求するような、そういう姿勢を持ちはじめられています。

グリモアといっています。自伝『野性の調べ』(ランダムハウス講談社刊)の中からいろんなことが読み取れるんですけども、子供の頃は、引きこもりで人と何にも話ができなかった。校庭の隅で、一人でじっと自分一人うずくまっていた。そういう自分の姿が、子供の頃の思い出の大きな部分を占めていたと回想しています。

ある日、ピアノと出会ったんですね。出会った途端に、自分の前に、光に満ちた道がずーっと未来に通じたことが実感できた。そして、ピアノの世界に没入して救われた。ここまではよくある話です。グリモアは、人とうまくコミュニケーションすることが、どうしてもうまくできなくて、自分は、まだ孤独だった。孤独であるけど、非常に優秀なピアニストになります。音楽学校でも非常に優秀な問題児だったと自分では言っています。

さて、これから後が、音楽家も、深いところでクオリティ オブ ライフ、人生の質につながるような全人格的メッセージを出すようになったんです。小手先細工でなくなっているん

ですね。その後、救われたけれども孤独だったこの人は、狼と出会います。

一人で、朝早く、まだ未明、アメリカの原野を散歩している時に、向こうの方から、犬ではない、絶対犬ではない軽やかに駆ける獣が自分の方に近づいて来るのを見た。この狼は、実は野性ではありませんで、ベトナムの帰還兵の方が飼っていた狼というか、一緒に過ごしていた狼なんですけれども、自分はもういいから分かんなくて、ジッと立ち尽くしていたら、その狼が、ずつと寄って来て、自分の手に鼻面をすりつけた。その時にね、自分は電光に打たれたような思いで、優しさが心を満たしたと、自分が書いています。その時から、自分は開放された。狼も開放された。

狼は、自分を腹を見せて、その場で横になったんです。肉食動物が、相手に腹を見せて横になるということは、全幅の信頼ということですね。なぜか分からないけど、狼とグリモアさんの間に、一瞬の間に、そういう全幅の信頼が出来上がってしまった。そこで自分は開放され

そういう意味では、風雅の世界に遊ぶということの意味も、世紀が明けて、ずいぶん深くなっているかなあという気はします。あるいは、深くならないと、生きていけないような、そういう、今、21世紀というのは、人間にとって不安な、恐ろしい世紀になってしまったというようなことかもしれない。

不安な恐ろしい世紀になったということが、今度は、こっちの汗を流して働くという方と関係してきます。私は、美術館の経営者として、四つぐらいあるんだと思っています。まず、異文化の相互理解のために働きます。2番目、国の風格と安全のために働きます。3番目、国の再生のために働きます。4番目、観光資源として働きます。あのう、笑わないで下さいね。観光資源って、そんなに馬鹿にした話じゃないですから。

異文化の相互理解のために文化が働かなければいけないというのは、よく分かりますねえ。逆に考えていただければ、異文化の相互理解が、今、世の中にどんな大きな病を、あるいは、世界に、どんなに大きな迷惑をかけているかということを既に知ってしまっていますねえ。9.11つても、もしかしたらそうだったかもしれないし、イラクも、あるいはパレスチナにおいてもそうだったかもしれない。

文化の相互無理解が、世の中を、今の世界をものすごく苦しめてしまっている。そうではなくても、この世紀、人類は、いろんな問題に直面をする。例えば、環境問題、もうほとんど限界にきているかもしれないというのが、今年の夏、すごく暑かったとか、台風が幾つも来ちゃったとか、ということも一つのその結果かもしれない。

あるいは、環境負荷がますます高まるような人口爆発が、今、起こっている。50億・60億の人口が100億になるのは時間の問題といわれている。その100億の人口が、しかも、世界的に

貧富の差が、非常に20世紀の負の遺産の一つですね。拡大してしまっただけ。そういう幾つもの相矛盾する問題を、世界が解決するためには、異文化の間の相互無理解をほったらかしておいてもいけない、少なくとも、お互いに理解さえすれば、世界は平和になるなど、そんなあまつちよろいこと言いませんけれども、理解しなければ、酷いことになるということは、もう見えてしまっている。

もう一つ申し上げますと、私達市民レベルで、世界のいろんな異文化を理解をする努力をしていかなければ、私達市民が歯止めにならないければ、世界は、とんでもない悪い結論に行ってしまうかねない。例えば、この地球、人口増え過ぎたから、いらない人は、地球から追っ払っちゃえ。抹殺してしまえ。必要のない民族は、地球の上から消し去らなければいけないということを中心として、実行してしまっただけが、今からほんの50何年前にはいまだたね。

そういう実績を持つ人類ですから、私達がよくばど強い歯止めを掛けていかないと、そういう厳しい21世紀に、人類は、とても不幸なことになってしまうかもしれない。そのために、私達市民が、世界のいろんな文化のことをお互いに理解をしてあげるといことをやっていかないと、その歯止めが掛からなくなってしまうかもしれない。そういう異文化の相互理解のために、文化は汗を流して働く。

2番目、国の風格と安全と書きましたが、私達の国はどうかというのを考えた時に、日本の国の風格と安全を一生懸命守るために、文化は働かなければいけない。

さっき言いました、関東の武家文化とか江戸町人文化だけではなくて、北国津軽から、薩摩・土佐まで、もちろん、瀬戸内の大人の社会を含めて、日本中の文化的底力を総動員をして、国の風格と安全ということを言いましたけれども、一つだけ言いますと、京都がなぜ爆

撃されなかったか、第二次大戦の頃。倉敷もそうかもしれませんが。大原美術館という西洋美術があつたから。

ウィーンというオーストリアの首都は、自分の所にウィーン・フィルハーモニーという、もちろん、別格のオーケストラ、あるいは、ウィーン国立劇場オペラというオペラ、ウィーン的美術館博物館、その上に国連の機関をたくさん自分の町に誘致をしまして、そういう形で、自分の町の安全を図っています。

というのは、どういうことかという、オーストリアというのは、東西対立の頃に、東ヨーロッパに、はみ出していた国ですね。さらに、この国は、中立を宣言しながら、あんまり軍隊を持たない形で、自分の安全を図らなければいけない。その時に、彼らは、文化の力と、国連の機関を誘致してくるということで、自分の安全を図りました。国の安全という、えらく生臭い話になるんだけど、そういうことのためにも、文化は、多分、汗を流して働かなきゃいけないんだろうな。

●

国の再生のために……ということとは、ちょっととばして、この次のところ言います。

観光資源として働くということ、これも、馬鹿にしないでいただきたいということをさっき申し上げましたけれども、観光資源として文化が働くというのは、文化情報を皆さんにうまく理解していただくように噛み砕いて発信をしていくということが大事なことですね。今、ニューツーリズム……ビジネスの方はピンとこられるかもしれませんが……ということがいわれています。

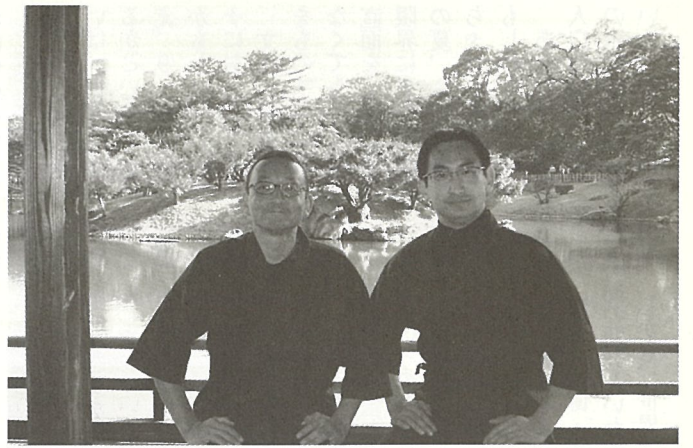
今までみたいに、出掛けて行って、写真写りもいい名所でパチパチ写真を撮って、お土産を撮って帰って来るというふうな観光では、今や飽き足らなくなっている。大人の社会ですから、もっとワンダグレード上の発見のあるような旅をしたいという方が、ずいぶん増えてい

ます。ワンダグレード上の発見をしていただくためには、自分達の文化情報を上手に出していく仕組みを作るとい形で、汗を流して働くことが大事だというのは、この歴史博物館を拝見しました。しみじみ感じました。本当にうまい展示をしておられますし、職員の方がとても親切ですね。一つ一つ案内をしていただいで、形で讃岐の文化を理解していただけるような文化の発信をされている。そういうためにも汗を流して働く。

世界の異文化の相互理解のため、大げさな話から始まりまして、自分の国の風格と安全を守るために、そして、国の再生のために、そして、自分達の文化情報を上手に発信してあげる観光資源として、文化は、汗を流して働かなければいけない。21世紀に風雅に遊ぶとかそういうことについても、真善美の徹底的な追求とか、クオリティ・オブ・ライフの深い考察とかということを書きましたけれども、こういうこととて、大人の文化なんです。若者の文化を越えた大人の文化というのが、今、これから、とっても大事になってくると思います。その時に、瀬戸内は、大人の海だということをこの頃よく感じるんですけれども、風景一つとてみても瀬戸内は、夕日の似合う海だねってことを言った方がおられました。何か小島の影に、夕日がキラキラきらめくその姿が、限りなく美しい海だ。そういう静かな風景というのは、多分、瀬戸内の大人の文化をずっと育てて来たのだらうと思います。

(中略)

こういうふうなことを考えながら、大原美術館は一生懸命頑張っていますということをご理解いただくと共に、そういうものが、大原にもあるし、琴平にもあるし、猪熊弦一郎さんの美術館も素晴らしいです。瀬戸内一体にそういうものが広がっていることが、私達の地元の人たちだということを、ぜひぜひ、じっくりと胸の中にたたんでいただければと思います。



お茶を楽しむ男の「茶楽」

戦国の世、千利休がお茶を広めた時代お茶を楽しんだのは、武士。即ち、もともとお茶は、男の世界でした。

しかし、近年女学校教育に茶道が採用されたこともあり女子化したように思います。

そこで、原点にもどり、男だけでお茶を楽しもうと「茶楽」を結成しました。

会長 瀬波 博 司 (写真左)

事務局 古竹 孝 一 (同右)

ところが、各人が家から持ち寄る稽古道具はそうそうたるもので、茶を点てるのに道具のあれこれを言わないが本来でしょうけれど、やはり、名人の作ったものは形がスッパリして使い易く、目利き素養のない我々にも良さがわかり、これが又、面白さに拍車をかけることになりました。

「茶楽の茶会あれこれ」

そこで、そろそろ茶会のデビューという話がちあがり、妹尾共子さんが初亭主を務める「雷茶会」の点前と運びを担当することになりました。宮中落雷事件の怨霊伝説の菅原道真と讃岐との関わりをテーマにした茶会は、なごやかで、我々もうちとけた気分で行えました。

もちろん、点前担当の者たちは仕事を終えた後の毎夜に稽古を重ね、姿勢でりしい点前を披露しました。運び担当者も茶碗の扱いをみっちり練習して、作務衣に茶楽のロゴをカラフルに刺繍縫いした制服を着て緊張の初舞台でした。

これが病みつきになって続けた茶会のいくつかを、ご紹介したいと思います。

近年、若い人に人気の北浜アリーで「波止場大茶会」。かつては浜仕事の荷揚げ場だった所での野点の茶会は、今流行りのミスマッチ風のおもしろさが好評でした。

高松の最新スポット・サンポートホール和室での「高松市文化奨励賞受賞者の集い」による「七夕茶会」の折には、会員の中條晴之君が受賞者の一人として主催側にいたので、一同が喜んで運びの手伝いに回りました。去年の彼の授賞式の日には市役所で茶の接待もしました。

財団行事予定

(三月～五月)

三月

◆懐石講座「雛祭茶会」三友居
三月一日(火) 午前十一時・午後三時

◆和菓子講座 高橋初乃先生
三月十一日(金) 午前十時～十二時

◆「月に一度の喫茶室」
三月十五日(火) 午前十時～十六時

屋島西町「漆工房北山」の北山圭一氏が茶道具などを展示して下さいます。

◆「南方録を読み解く」伏見章先生
三月二十九日(火) 午後一時三十分

四月

◆四月月釜のご案内「陽春」
春爛漫 卯月に表千家流美澤包子先生が釜をかけて下さることにしました。

た。感性豊かな先生のこだわりの席をお楽しみ下さい。お誘いあわせてご入来お待ちしております。

記

とき 平成十七年四月三日(日)

処 晴松亭・美藻庵(当財団茶室)

席主 表千家流 美澤宗包

茶席ご案内 薄茶席・酒飯席

参加費 四千五百円

入席時間ご案内

第一席 九時 第五席 十二時二十分

第二席 九時五十分 第六席 十三時十分

第三席 十時四十分 第七席 十四時

第四席 十二時三十分 第八席 十四時五十分

◆晴友会懇親会

四月五日(火) 桜満開の吉野山に一晚泊りで出かけます。

◆和菓子講座 高橋初乃先生

四月八日(金) 午前十時～十二時

「お茶の思い出」

ある日、ある時のことです。

四、五人で話をしていて、幼い頃から家の中に何となく「お茶」があつたなあということになりました。なにぶん子供のことゆえ、また、関心がなかったせい、記憶は定かではないのですが、例えば、祖父が人を招いて茶会を持つ時、庭の掃除や力仕事に駆り出されて閉口したと昔をこぼした父の話。普段、子供たちの世話で髪を振り乱していた母が、きれいな着物姿で「今日はお茶会に…」と出かけていくのを見送った記憶。友人を招いての自宅麻雀に抹茶やお菓子が出たこと。祖母や母は台所でごく普通にお茶を点っていた光景。

それぞれが披露した茶に関する思い出話は似たりよったりで、話に花を咲き賑やか

だったのですが、誰の話も「近頃は、そういう話にはトンと縁がなくなつたなあ」で終わりました。

「お茶の面白さ」

でもナントなく、ナントなく、郷愁をそそる茶の話が続き、居合わせた者たちの共通した印象が「お茶って面白そう」ということになり、男の数寄者たちだけの茶の湯の会を作ろうということになりました。

まず、茶道具のイロハから、お点前の順序だけでも、おじぎから始まる挨拶の仕方：と、初歩からの始まりでした。幸い、会員の中に流派は別々ですが、稽古らしきものを続けている者(妙な表現で、すみません)がいましたので、それを頼りに特別な師匠に付かずスタートしました。

Oh! 茶Gai!

その②③



今回は高校2年生の三日月佑梨さんです。お茶を習い始めたのは高校に入学してからだそうです。高校2年生でもう2年間もお茶を習っているのはお母さんの影響みたいです。

お母さんも結婚前にお茶を習っていて、年齢や社会的な地位を越えて様々な方と知り合えるお茶の素晴らしさを伝えたかったそうです。

佑梨さんもお茶を習い始めて普通の生活では感じられない日本の空気を楽しんでいるみたいです。昨年の夏にはタスマニアにホームステイし、そこでもお茶を振る舞ったそうです。

その時にはこちらから三盆糖を持っていったそうですが、口に合わない方もいて、なんとチョココレートをお茶菓子にされたそうです。

正直正座はまだ辛いそうですが、これからも続けていきたいそうです。

喫茶居(二十三)

「大学で勉強」

この頃仲間に流行るもの。健康、趣味、昼ごはん…。鎌倉末期、京の二条河原に掲げられたリスミカルな落書をまねてみて、平和な今に南北朝動乱の不安も緊張もありません。寄ると触るとの話題は、運動不足で肥満の心配、余暇を有効にとカルチャー教室通い、そして、ちよつと贅沢なランチ情報…。

香川大学生涯学習研究センターでは、市民に教授たちの講座を提供しています。内容も広範囲に外国文学の解説、歴史の話、身近な法律問題、体操の実技指導などがあって、それぞれに興味を同じくする者が集まる勉強会です。先生は学生より熱心だと褒めてくれますが、だからといって、こちらの理解や記憶が優れているわけはありません。

運動がてらに徒歩通学し、学生さんたちで賑わうキャンパスの学生食堂でお昼やコーヒを頂くと、若さがよみがえって素敵なひとときが味わえました。



●H16.5月 波止場茶会にて

そして、きわめつけに、天下の名園・栗林公園掬月亭で、文字通り、湖にはりだした座敷から水に浮んだ月を掬う風情の茶会を催しました。紅葉の美しい夜の庭園での月見茶会「茶会と雅楽」は、さながら殿様の気分。多くの人に喜んでもらえ、県との交渉や準備のたいへんさも、当日の繁雑さもすっかり忘れて、茶の醍醐味を、みんなで分けあいました。

茶に関心をもつ男というだけが入会の条件の茶楽の会員は増え続け、奥さんと一緒に稽古に通いだした若や、本業の仕事で奉仕する会員もいて頼もしい限りです。

何だか面白そうと始めた茶の世界の奥深い精神も、はるか向こうではありますが、ほの見えてきた思いもあります。これからもお茶の枠を少し広げて、私たちなりのものてなしの茶を続けていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。

◆「月に一度の喫茶室」

四月十九日(火) 午前十時～十六時
藤塚町の村尾卓也氏が「萩焼」の作品を展示して下さいます。

◆「南方録を読み解く」伏見章先生
四月二十六日(火) 午後一時三十分

五月

◆懐石講座 五月三日(火)

◆和菓子講座 五月十三日(金)

◆「月に一度の喫茶室」五月十七日(火)

◆「南方録を読み解く」五月二十四日(火)

◆五月月鑑のご案内「端午の節句」

初風炉の季節を迎えます五月。茶道石州流宗家が当財団で、はじめて釜をかけて下さることになりました。奈良より遠路お運び下さり準備を重ねて下さっています。他流の方々もお誘いあわせてご入席をお待ちいたしております。

記

とき 平成十七年五月八日(日)

処 晴松亭・美藻庵(当財団茶室)

席主 濃茶席 茶道石州流宗家

薄茶席 茶道石州流高松会

点心席 茶道石州流高松会

入席時間ご案内 (A・B各十五名様)

第一席 A・B 午前九時二十分

第二席 A・B 午前十一時

第三席 A・B 午前十一時五十分

第四席 A・B 午後一時三十分

各席二時間三十分を予定

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要。お申し込み、お問合わせは、当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一一二

☎(087)8266・3355

茶 華 道 ガ イ ド

安部流 ☎(0877)86-3442

3/20 安部流家元茶会
栗林公園 (掬月亭・商工奨励館)
5000円 10:00~15:00

一生本流 ☎(087)833-3805

3/2~7 いけばな展と茶会 高松天満屋
500円 10:00~19:30
3/17~21 一生本流創流60周年記念いけばな展
(19休) 香川県文化会館
700円 10:00~16:00
3/17 石州流讃岐清水派 石州会
松岡愛水社中 500円 10:00~15:30
3/18 石州流讃岐清水派 石州会
児玉光秀社中 500円 10:00~15:30
3/20 茶道裏千家 遠藤敏徳社中
500円 10:00~15:30
3/21 三葵亭寛茶流高松仙友会
日下光峰社中 500円 10:00~15:30

江戸千家不白会香川支部 ☎(087)851-5330

3/4 いけ花と茶会 高松天満屋
お茶当番 江戸千家不白会香川支部
500円 10:00~17:00
4/8 花まつり茶会 席主:行弘宗春
法泉寺 500円 9:30~16:00
5/22 鬼子母神尊夏祭茶会
席主:中村宗敬
本覚寺別院 500円 9:00~16:00

小原流高松支部 ☎(087)833-9274

5/20~22 創流110周年・小原流高松支部創立
45周年記念いけばな小原流展
高松天満屋 500円 10:00~19:00
(22日は17:00閉場)

かをり園 ☎(087)821-5957

4/13~17 六代 川端近左襲名披露展
御坊町福善寺 添え金あり
9:00~16:00

華道一生流 ☎(087)821-4347

5/22 鬼子母神尊夏祭茶会
いけばな展と茶会 華道一生流葵会
本覚寺別院 500円 9:00~16:00

皇風煎茶礼式 ☎(0877)46-5303

4/9~10 香川県立東山魁夷せとうち美術館
オープニングフェスティバル第18回万葉
一山月一茶会 万葉会館
(主催:坂出市教育委員会 TEL0877-44-5026)
300円 10:00~15:30

琴平月釜茶道会 ☎(0877)58-9551

3/6 松尾寺月釜 席主:裏千家上杉宗邦
松尾寺 500円 9:00~16:00
4/10 松尾寺月釜 席主:官休庵竹井清子
松尾寺 500円 9:00~16:00
5/8 松尾寺月釜 席主:裏千家片桐宗恵
松尾寺 500円 9:00~16:00

茶華道一茶流 一茶庵久松会 ☎(087)885-2322

5/15 一茶流茶会といけばな展
玉藻公園披雲閣
1200円(入場料含む) 9:00~15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

3/6 善琴分会月釜 席主:岡田宗芳
善通寺樟蔭軒 500円 10:00~15:00
3/6 善琴分会月釜 席主:上杉宗邦
琴平松尾寺 500円 9:00~16:00
3/20 坂出分会月釜 席主:常盤宗富、
宮川宗春、岩崎宗恵
翠松閣 500円 9:30~14:00
3/20 多度津分会月釜 席主:塩田宗強
共同福祉施設 500円 13:00~15:00
3/20 観音寺分会月釜 席主:荒木宗広
働く婦人の家 500円 12:00~15:30
3/27 香川支部利休忌 善琴分会担当
琴平紅梅亭 2000円 10:00~14:00
4/24 坂出分会月釜
席主:前田宗綾、田中宗慶
坂出八幡神社 500円 9:30~14:00
4/29 坂出市瀬戸大橋展望茶会
坂出分会C班担当 瀬戸大橋記念公園
300円 9:30~14:00
5/1 善琴分会月釜 席主:金場宗遊
善通寺樟蔭軒 500円 10:00~15:00
5/4 お城祭り協賛茶会 席主:金子宗幸
丸亀市民会館 500円 10:00~15:00

5/5 坂出分会月釜 席主:深見宗親
勤労福祉センター 500円 9:30~14:00
5/8 善琴分会月釜 席主:片桐宗恵
琴平松尾寺 500円 9:00~16:00
5/8 観音寺分会月釜 席主:秋山宗君
働く婦人の家 500円 12:00~15:30

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

3/6 淡交会高松支部月釜 席主:高畑宗稔
天神会館 600円 9:00~16:00
3/6 茶華道展 席主:長谷川宗和
高松天満屋 500円 10:00~16:00
4/3 淡交会高松支部月釜 席主:大高宗青
天神会館 600円 9:00~16:00
5/1 淡交会高松支部月釜 席主:浦辺宗艶
天神会館 600円 9:00~16:00

石州流讃岐清水派石州会 ☎(087)898-6569

3/5 春季いけばな展と茶会
席主:和敬会有志
高松天満屋 500円 10:00~17:00
4/3 西徳寺月釜 席主:森田宗敏
池戸西徳寺 400円 9:00~16:00
4/24 創立68周年記念茶会
席主:一席山崎宗寿
二席和敬会有志
玉藻公園披雲閣 1100円 9:00~15:00

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

3/6 香川官休会月釜
武者小路千家青年部
本覚寺 500円 9:00~15:00
3/20 象谷茶会 香川官休会在松会
披雲閣 1000円 9:00~
3/21 象谷茶会 香川官休会嶺松会
披雲閣 1000円 9:00~
4/3 香川官休会月釜 在松会
本覚寺 500円 9:00~15:00
4/10 香川官休大会
披雲閣 1200円 9:00~
5/1 香川官休会月釜 席主:石井喜子
本覚寺 500円 9:00~15:00
5/8 栗林公園月釜
掬月亭 500円 9:00~16:00

次の期間(6月1日から8月末日)の情報を5月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合があります。

イ ベ ント ガ イ ド

総合会館アイレックス ☎(0877)86-6800

4/3 ハートフルJAZZコンサート 14:00~●
5/8 南ファミリー劇団公演inあやうた
14:00~●

灸まん美術館 ☎(0877)75-3000

3/11~15 朝田哲大作陶展 9:00~■
3/18~22 西尾祐子油彩展 9:00~■
3/25~29 一布の小物一高橋栄子展 9:00~■
4/1~5 田淵太郎陶展 9:00~■
4/8~12 臼杵春芳木工展 9:00~■
4/15~19 土洋会展 9:00~■
4/22~26 ときめいてようこそ押し花作品展
9:00~■

4/29~5/10 北地孝日本画展 9:00~■
5/13~17 森岡潔陶展 9:00~■
5/20~24 石川盈・大森友絵 油絵・書二人展
9:00~■
5/27~31 中黒浩喜油彩展 9:00~■
6/3~7 琴平きり絵同好会展 9:00~■

多度津町民会館 ☎(0877)33-3330

3/21 第9回尽誠学園高等学校ウィンドオー
ケストラ部定期演奏会 17:30~■
3/27 オペレッタ「シンデレラ」14:00~■
4/24 第40回多度津芸能音楽祭 10:00~■

観音寺市民会館 ☎(0875)23-3939

3/6 第16回観音寺・三豊地区大正琴演奏会
11:00~
3/13 第18回三豊民踊民舞まつり 12:00~

豊浜町文化協会 ☎(0875)52-1211

3/4~6 豊浜書道クラブ・和紙人形クラブ作
品展 豊浜町文化会館 9:00~■

三野町教育委員会 ☎(0875)73-3120

3/20 人形浄瑠璃&人形劇INみの
ふれあいの森公園ふれあいパークみの
12:00~■

イベントガイド

香川県民ホール ☎(087)823-3131

<アクトホール>

- 3/12 コレギウム・ムジクム高松第10回演奏会 18:30~●
3/13 武蔵野音楽大学同窓会香川県支部演奏会 第5回アミーチュムサシノ 14:00~●
3/20 KJD合奏コース公開レッスン&基礎コース発表会 13:30~■
3/21 瀬戸フィルハーモニー交響楽団ファミリーコンサート 14:00~●
3/25 高松桜井高等学校吹奏楽部 第8回定期演奏会 18:30~★
3/26 高松北中学校・高等学校合唱部 第14回定期演奏会 18:00~■
3/27 リトルスターコンサート 13:30~■
3/29 第17回高松西高吹奏楽部定期演奏会 18:30~★
4/15 細田淑子&アンドレイ・シブコーピアノDuoリサイタル 18:30~
4/16 童謡唱歌の祭典「甦え!日本の心」 13:00~★

香川県文化会館(休館日月曜) ☎(087)831-1806

- 2/5~3/21 1枚の絵から一猪熊弦一郎「バレリーナ」 9:00~●

香川県教育会館 ☎(087)833-0013

- 3/20 第9回ミュージズホール春の音楽祭 ミューズホール 13:30~■

高松市教育委員会文化振興課 ☎(087)839-2636

- 3/10 デリバリーアーツ事業「瀬戸フィル音楽会」 勅使百華保育園 10:00~■
サンポートホール<大ホール>
3/17 第18回NTT西日本N響コンサート 18:30~●
3/18 いっこく堂ミラクルボイスショー 19:00~●
4/5 ミュージカルオペモーツァルトアマデウスがやって来た(事前の申込必要) 13:30~・17:00~■
サンポートホール<第1小ホール>
4/9 王莉(ワンリー)中国古筝演奏会 14:00~●

高松市美術館 ☎(087)823-1711

- 3/4~21 集合のイメージ展「高松市美術館コレクション展」 9:30~●
3/13 秋山陣ワークショップ「土をつくること、触れること、感じること」 10:00~▲
3/27 伊藤存さんといっしょにつくる「脳の土地のためのドロ잉」 10:00~▲
4/15~5/29 ゲント美術館名品展「西洋近代美術のなかのベルギー」 9:30~●

高松市歴史資料館 ☎(087)861-4520

<サンクリスタル高松4階特別展示室>

- 1/29~3/13 第38回特別展「讃岐の文人・後藤漆谷の書跡とその周辺」 9:00~●
4/23~5/29 収蔵品展(仮称) 9:00~●

玉藻公園 ☎(087)851-1521

- 3/6 マイシアターまつり 披雲閣
3/12~4/17 植木市 二之丸跡
3/20~21 第22回香川の漆器まつり 披雲閣
3/27 新樹川柳会27回大会 披雲閣
4/24 石州流讃岐清水派石州会茶会 披雲閣
5/5 玉藻公園開園記念 無料開放
5/14~15 平成17年度一茶流茶会といけばな展 披雲閣
5/29 名物かまど茶会 披雲閣

高松生涯学習センター ☎(087)811-6222

- 3/19 もっと知りたい高松・市民講座「目からウロコ!最新の中国事情」 13:30~■
3/20 盲導犬理解の講演会と映画「クイール」上映会 13:30~■
3/19 ゴスペルコーラスコンサート 13:30~■

市民オペラちえいりあ ☎(087)865-3953

- 3/26 落語ペラ ホフマン物語 サンポートホール高松第1小ホール 14:00~・18:00~●

高松天満屋 ☎(087)812-7750

- 3/2~7 第4回春季いけばな展と茶会 10:00~●
4/27~5/1 竹田豊靖展 10:00~●
5/20~22 小原流いけばな展 10:00~●

ギャラリーen ☎(087)851-3711

- 3/3~9 二代 長野埜志 茶の湯釜作品展 10:00~■
5/30~6/8 イシス更紗会 10:00~■

ギャラリーアコスタージュ ☎(087)841-8200

- 3/5~27 銭谷嘉康展(カタルニャの光) 10:00~■
4/13~25 康恵子展 10:00~■
4/28~5/22 西美公二展 10:00~■
5/28~6/26 勝木繁昌展 10:00~■

四季ギャラリー ☎(087)822-9010

- 3/1~31 じーばクラブスケッチ展 7:30~■
4/1~30 清水純一、古川博文、島信正絵画三人展 7:30~■
5/1~31 グループ絵遊人水彩画展 7:30~■

ヨンデンフラザ高松 ☎(087)851-3863

- 3/1~6 陶芸作品展 10:00~■
3/15~20 油絵展 10:00~■
3/22~27 「讃岐彫」木彫作品展 10:00~■
4/12~17 「創造」陶芸展 10:00~■
4/19~24 かな書展 10:00~■
4/26~5/1 サボテン・多肉植物展示品評会 10:00~■

オリフホール ☎(087)861-0467

- 5/3~8 はがき絵同好会展 10:00~■
5/17~22 水彩画展 10:00~■
5/24~29 さぬきふるさと風景展 10:00~■
5/31~6/5 写真展 10:00~■

土庄町教育委員会教育課 ☎(0879)62-0238・7013

- 3/5 スネオヘアー 18:00~●
4/6 SOUL'D OUT 19:00~●
4/9 銀杏BOYS 18:00~●

土庄町立中央公民館 ☎(087)845-4111

- 5/14 高橋薫子リサイタル 土庄町立中央公民館 14:00頃~●

牟礼町文化協会 ☎(087)845-4111

- 5/22 公民館まつり 牟礼町公民館 9:30~■

牟礼町石の民俗資料館 ☎(087)845-8484

- 3/5~17 文化協会展 革の花同好会 9:00~■
3/19 石川幸司クラリネットリサイタル 18:30~●
3/19~20 むれ源平まつり2005 石匠の里公園資料館
3/20~4/3 さぬき石物語展 9:00~■
4/9~5/5 めばえ展(文化協会指導者展) 9:00~●

とらまるパペットランド ☎(0879)25-0055

- 3/26~27 「あかちゃんゴリラのゴリゴリ」人形劇団むすび座 13:30~●
3/29~30 「ちょうふく山のやまんば」人形劇団ばんび 13:30~●
3/31~4/1 「ぶんぶくちやがま」人形芝居くりちゃん 13:30~●
4/2・3 「ふたりのお話」人形劇団ひばたあむ 13:30~●

坂出市教育委員会 ☎(0877)44-5026

- 4/9~10 第5回沙弥島万葉ウォーク 万葉会館 10:00~●
4/9~10 第18回万葉「山月」茶会 万葉会館 10:00~●
4/17 第14回万葉短歌大会 万葉会館 9:30~●

坂出市民ホール ☎(0877)45-1505

- 3/13 プチフェスタ・コンサート 13:00~■
3/21 第2回ハートフルスペシャルコンサート 14:00~●
5/15 カップ座人形劇公演 14:00~●

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877)24-7755

- 3/13~6/12 風景散歩 sight-cruising 10:00~●
3/3 アーティス・トーク1 [風景と音] 講師:藤本由紀夫 14:00~■
4/23 アーティス・トーク2「自然は時間と共に真の姿を現す」講師:野村仁 14:00~■
4/9・10・23・24 ワークショップ「春の光の収集」講師:小山田徹 10:00~■
5/14~15 ワークショップ「2000年後の風景をつくろう!!」講師:柴川敏之 13:00~■

丸亀市立資料館 ☎(0877)22-5366

- 2/26~3/27 暮らしの中の竹とわら展 9:30~■
3/12 竹ぼうきとわら草履をつくろう 13:00~■

丸亀市教育委員会 ☎(0877)24-8822

- 5/3・4 (仮称)日本刀公開鍛錬・太刀制作 丸亀お城まつり協賛 JA丸亀跡地

丸亀市民会館 ☎(0877)23-4141

- 3/21 中国芸術団公演 18:30~●
3/25 丸亀高校吹奏楽部第23回定期演奏会 17:30~■
3/27 吾妻流たちばな会
5/1 島田創作舞踊研究所発表会 13:30~■
5/8 カップ座丸亀公演 13:30~●
5/21 假屋崎省吾トークショー&フラワーアレンジメント ●
5/29 長山洋子コンサート 14:00~・18:00~●

あーとらんどギャラリー ☎(0877)24-0927

- 3/5~27 北川健次展 11:00~■
3/5~20 森久保安奈染織展 11:00~■
4/2~24 横山善一+長尾武美+野村修三三人展 11:00~■
4/7~21 用と美の茶道具展 11:00~■
5/7~29 門坂流展 11:00~■
5/15~6/5 浅原千代治グループ吹きガラス展 11:00~■

美翠Bisui ☎(0877)23-6350

- 3/10~4/9 日本の折形と襲(カサネ)の色(のしぶくろ)展 ■

二十四の瞳、分教場で歌う子供たちの歌と足踏みオルガンの囁

特別寄稿

「分教場のオルガン」

西垣正信



楽舎RAKU-SHA RGN1010

ルガンの周りに集まって歌った、小学唱歌かも：ですね。クラシック音楽を生業にしていますと、唱歌や童謡にはなぜか少しの複雑な、しかも、少しの否定的な感情を抱いていました。でも、探ってみても、その教室の歌のほかには、自分にとっての音楽のルーツはなさそうです。

いま、童謡唱歌は教育の現場では教科書からは抹殺され……うん、思い切つていうと、くだらない軽薄な歌にとつて替わられています。

ことの発端は自分自身への「問いかけ」でした。これは子供たちの歌のCDのことです。それから、本来は主人公、子供たちの視点、そこからお話しすべきことなのです。しかし、今回はこの企画の切掛け、自分への問いかけからお話したいと思います。

私は西洋古典音楽の世界に生きてきました。同時に少年のように、自身に月並みなわだかまりも持ち続けていました。「おまえは東洋に生まれ育った。おまえの音楽のルーツは何処にあるのか?」：その問いはシンプルであるけれども、なかなか深刻に考えることです。

私は日本人、拠って音楽のルーツは幽玄な「能」：? いやいや違うな。でも、演歌も流行歌も嫌いだっただし：、すると、木造の小学校の教室で、先生の踏みリードオ

さて、私たちの「音楽の時間」、木造の教室と足踏みオルガンによる音楽教育が正しかった、か、否か?その判決を待つためにも、私たちが受けた教育、その現場の音は残さなくてはならない!と、蛮勇を抱いたのです。

幸い、小豆島の分教場、映画村の皆さま、小豆島の苗羽(のうま)小学校の先生、生徒、父兄皆様の完全なご協力を得て(簡単にたった一行で通過しますが、皆さまは意図を瞬時に理解してくださったのです)、「二十四の瞳」のあの木造の教室で子供たちの歌声を、「音楽の時間」を再現し録音することができました。そこには訓練された児童合唱ではなくて、かつての自分の姿があります。現代では、教育の目に見える結果をもって、教育の投資効果を計ろうとしています。学校も親も同じですね。しかし、教育の一番

大きな恩恵というのは、物差しで計れない、目に見えない部分にあるのでしょうか。そこに歌う子供たちは、特別な訓練を受けた子供たちではなくて、目の前のマイククロフォンの緊張で震える子供たちです。私もそうでした。一人で歌わされると、緊張で声がうわづつたものです。教室の薄い窓ガラスを透して聞こえる音、鳥の声や船のエンジン音もそのままです。

木造の教室の美しい響き、オルガンのペダルの軋み：、私は自分の少年時代を美化しているのかもしれない。その教室の想い出を回想する瞬間、すこしの幸福感が私を包みます。現代の日本の子供たちは、教室に幸福な想い出を抱いているのでしょうか。

CD「分教場のオルガン」プレゼント

【収録曲】

みかんの花咲く丘／故郷
春の小川／春が来た／茶摘
はなさかじい／花／夏は来ぬ
ウミわれは海の子／浜辺の歌
紅葉／うさぎとかめ／七つの子
とんび／夕焼小焼／たきび
お正月／冬の夜／冬景色
あおげば尊し／螢の光／荒城の月
●うた 苗羽小学校(小豆島)の
こどもたち

●オルガン独奏

久下真理

この度、小豆島の分教場のヒット商品となったCDを西垣先生からご提供頂きました。

ご希望の皆様にはプレゼント致しますのでご希望の方は

●お名前 ●ご住所 ●電話番号
●年齢と、文化通心のご感想をお書き添え頂き財団事務所までお申し込み下さい。

ハガキ、FAX、メールのいずれかでどうぞ!

編集後記

かつて お稽古ごとや習いごと趣味の会と言われていたものが、○○サークル ○○文化教室(カルチャースクール)となり、昨今は生涯学習と呼ばれるになっています。その数はいくつあるのでしょうか。各種文化施設の講座報道関係の講座 通信教育講座など多種多様にあり多くの人たちがやりたいことや興味のあることを選択するチャンスに恵まれています。

しかし、そうそうメジャーなことではなく、自分なりのこだわりを持って一途に打ち込んでいる人たちが 情熱を持って続けている人たちがいらつしやると思うのです。本誌に掲載したプレゼントするCDもそういう熱意の結実でしょう。

「目に見える成果を望んでいるわけではない」とおっしゃる方もいらつしやるでしょうが、少しづつでもそんな人たちに出会い、紹介していくことが出来たらいいなと思っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017 高松市番町二丁目一—二二
(財)中條文化振興財団編集部
TEL(087)8266・3355
FAX(087)8266・2212
admin@chujo-zaidan.or.jp